

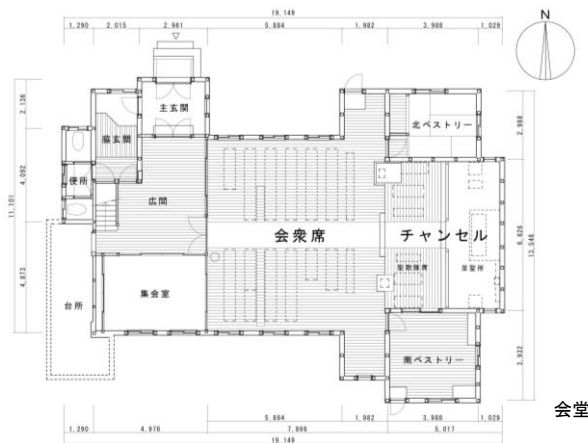
1 ^{にほんせいこうかいやぎきりすときょうかい} 日本聖公会八木基督教会 1棟 [有形文化財（建造物）]

[所在地]	檀原市南八木町
[所有者]	日本聖公会八木基督教会
[員数]	会堂 1棟 附 家具 31点、正門 1所
[時代]	昭和 11年(1936)
[概要]	

日本聖公会八木基督教会は、JR 畝傍駅の南西、飛鳥川の堤近くに位置する。大正 2年(1913)に教会を設立後、昭和 11年(1936)に現在の会堂が建設された。設計者は、住友本店臨時建築部の^{みつやすかじのすけ}光安梶之助、大工は^{かいしゅうせき}福井辰蔵である。

会堂は、桁行 19.15m、^{かいしゅうせき}会衆席の梁間 8.6m、木造 2階建、^{きりづまづくりきんがわらぶき}切妻造 檼瓦葺とする。1階の平面は、東西に長い十字型の平面を基調とし、東側のチャンセル（内陣）と、その西側の会衆席を併せて礼拝堂とする。2階は、西半を 27 畳の和室、東半を吹き抜けとする。和室の礼拝堂側は一面に襖を入れ、開放時は両端の戸袋にすべて格納することで礼拝堂と一体の空間となり、^{さじきせき}檼敷席として機能する。

当会堂は、大きい改修が少なく建設当時の形式をよく残している。ロマネスク様式のアーチ付き列柱やアーキヴォールト、四葉飾りといったモチーフを用いて教会建築らしさを演出するとともに、チャンセルと会衆席を一体的な空間とし、檼敷席を 2階に設けるなど、プロテスタント教会の伝統と建設当時の生活様式や社会情勢を反映した建築であり、県内のキリスト教建築の変遷を辿る上で重要な遺構である。



会堂

1階平面図



会堂外観(北東より)



会堂内観(東より)



会堂内観(西より)